



新春の青空に大凧舞う

1月13日、物部町の物部グラウンドで、物部地区公民館主催の三世代交流凧揚げ大会が開催されました。

会場には、大柘保育園の園児や放課後児童クラブの子どもたち、そして、一般参加の家族など約80人が、凧作り教室で作った凧を手に集まりました。はじめに、子どもたちがグラウンドを力いっぱい走り、小凧を高く揚げました。

昼食にはヘルスメイトの皆さんの協力で、七草がゆやぜんざいなどが振る舞われました。

午後からは、昨年誕生した子どもたちの健やかな成長を願って名前を書き入れた『祝凧』や、人権啓発や民謡部の発展をテーマにした凧、そして4枚もの大きさの『千支凧』など、さまざまな凧が大空に舞いました。



消防出初式

▲出初式で機械器具点検を行う消防団員

1月13日、香美市民グラウンドで、消防団員・関係者など約250人が参加し、香美市消防出初式が開催されました。

式典では、団員の表彰や機械器具点検、分列行進などが行われ、団員らは防災への決意を新たにしていました。また、昨年10月の高知県中央地区消防操法大会に出場した日ノ御子分団について、3位入賞の披露が行われました。

式典では、女性団員2人が司会進行や表彰の補助などを行いました。

アンパンマンカップ

1月12日・13日の両日、県立青少年センター(香南市)を主会場に、土佐山田体育館・山田高校などの県内15会場で、第20回四国近県交歓小学生バレーボール大会(アンパンマンカップ)が開催されました。

この大会は、香美スポーツ少年団香北バレーボールクラブと舟入ジュニアバレーボールクラブを中心としたアンパンマンカップ実行委員会(五百蔵隆実行委員長)の主催で毎年開催しており、小学生の大会としては西日本最大の大会です。今回の大会には、四国・中国・近畿地方から198チーム、約2,400人が参加し熱戦を繰り広げました。

選手を代表して、木村陽樹選手(舟入JVC)、池上海空選手(香美香北VC)が選手宣誓をしました。



受章名	本部・分団	階級	氏名
功績章	片地	分団長	小松國広
	美良布	"	福留哲男
	永野	"	岩崎良一
精勤章	神池	分団長	竹田真悟
	佐岡	班長	小川 晃
	明治	"	原 啓之
	猪野々	"	森本初雄
	楠目	班長	徳弘智之
勤続章	片地	"	大岸輝彦
	猪野々	"	西本清光
	楠目	団員	原 壮司
	"	"	和田雅充
	美良布	"	田中一平
	西川	"	恒石敏幸
	猪野々	"	泉 竜也
	大柘	"	伊井英智
	"	"	小松伯聖
	"	"	山下 聡

香美市消防表彰(表彰基準日 平成30年12月31日)

図書館だより

市立図書館

◆子どもの読書週間

【標語】
ドは読書のド♪



【期間】
4月23日(火)～5月12日(日)

読書は、子どもたちの心を育て、感性を磨きます。またそれだけでなく、言葉を学び、考える力や表現力を身につけるためにもとても大切なものです。

子どもの読書週間は、さまざまな本と出合う良い機会です。

本館では、県教育委員会が平成30年に発行した『絵本おはなし・宝箱』で紹介されている絵本を借りることが出来ます。これは、子どもの成長やテーマに合わせて絵本を選ぶことができます。また、各館では読書に親しみを持てる企画や展示を行っています。

「さて、今日はどんな本を読もうかな?」と親子で話しながらか、読書週間を楽しんでみませんか。

◆開館時間が変わります

市民の皆さんがより一層利用しやすい施設となるよう、4月1日から新しい時間帯でのサービスを開始します。ぜひご利用ください。

【本館の新しい開館時間】

10時～18時(通年)
※香北・物部分館の開館時間は、今までどおり9時～17時です。

◆臨時休館日のお知らせ

蔵書点検・資料整理のため臨時休館します。
本館 3月12日(火)～14日(木)
物部分館 3月12日(火)～14日(木)
香北分館 3月13日(水)

◆本を探しています

～寄贈のお願い～
ふるさとを知る貴重な資料、総合美良布文化史(美良布第一尋常高等小学校編・昭和11年発行)を探しています。

◆お問い合わせ先

本館 ☎53・0301

Pick Up

山からの伝言

森林組合長 野島常稔の仕事
笹岡高志 著
先進的な活動で大臣表彰を受けた香美森林組合。弱小組合を全国トップレベルに育てたその歩みと、森林現場の今を伝える。

亡国の農協改革

三橋貴明 著
日本の農業に対する危惧を示しながら、農協の役割を詳しく解説。安全保障面からの農業が語られ、今後の農業や農協に対する視野が広がる一冊。

常設展示室

原田マハ 著
人生の岐路に立つ人々が、美術館で出合った絵に答えを見いだす。フェルメール、ゴッホ、マチス。インターネットで作品を検索しながら読んでみては。

吉井勇記念館だより

企画展 吉井勇と五足の靴 ～九州旅行と南蛮文学～

明治40年8月、吉井勇は与謝野鉄幹や新詩社の同人たちと九州を旅しました。同行した北原白秋や木下 幸太郎は、この旅で得た南蛮情緒を詩集や戯曲などの作品に取り入れました。これらは後に、明治末から大正期の文壇に『南蛮趣味』の流行をもたらします。そして、南蛮文化やキリシタンの文化遺産としての重

吉井勇作品紹介 ～五足の靴～

白秋とともに泊りし天草の 大江の宿は伴天連の宿

今回の企画展にある九州の旅では、下関、博多、佐賀、佐世保を経て、南蛮遺跡探訪の最初の目的地である平戸へ行き、そこから長崎を経て天草を訪れました。天草・大江村ではフラン

※大正13年発表の歌集『夜の心』より
ス人宣教師を訪ね、キリシタンの歴史や文化に触れました。勇は晩年、「思想的にも芸術的にもこの旅行が、ひとつの大きな転機となった事は否めない」と述懐しています。

お問い合わせ先 吉井勇記念館 ☎58・2220